

2002年セネガル大使だった古屋氏から、文化交流として土地の児童たちとの交流に児童絵画コンクールを開きたいからと、審査員を頼まれた。

フランスの方が近いのと、一度滞在したことがあるし、フランス語圏などの理由でわたくしになったのだと思う。

始まってみて驚いた、学童教育にまだ絵画なんてないレベルの段階だったのである。結局、昔からあるエリート校フランススクールだけが対象になった。

コンクール結果発表展示では、参観した父兄から、どうしたら子供を海外留学させられるかの相談が一番多かった。以来、古屋夫人の尽力による「手を洗おう会」のパリ展示には招かれて、当時を懐かしく思う。

2019年4月吉日

画家 赤木 曠児郎

旭日小綬章

フランス芸術文化勲章シュバリエ



赤木 曠児郎画伯 & カヨ夫人